

## ドイツにおける自然療法重視の流れ

亀井 勉

一般社団法人健康促進・未病改善医学会 代表理事  
京都国際キャリア大学(専門職大学) 医工連携応用福祉学部準備委員会 委員長

補完代替医療は、いわゆる西洋医学を主とした治療法ではなく、漢方やヨガなどのような伝統医療、あるいは温泉治療やマッサージなどリラクゼーション法を用いた先駆的医療であり、最近はその種類や応用範囲も多様化してきている。

たとえば、ドイツでは公的保険か民間の医療保険のいずれかを必ず選ぶ必要があり、民間の医療保険では各種補完代替医療を広くカバーしている。近代西洋医学の先導役だった時期からのデータ蓄積もあるためか、西洋医学の反省すべき点について国民が敏感である、もしくは理解が深いという事情も背景にあるようである。そのためか、意外にも東洋医学的医療への期待が大きく、研究も盛んになってきている。立証された東洋医学的手法は、順次、民間の保険会社が積極的に保険適用してゆく傾向がある。

そのため、製薬会社や医療機器メーカーは、補完代替医療の分野の研究開発を推進しているわけである。これらの成果を公的保険に適用するか否かについては、当然慎重であるべきだが、ドイツでは、民間の医療保険の適用になるため、ハードルはそれほど高くはない。民間の保険会社では、ある程度以上検証が進んでいて、安全かつ普及が見込まれると判断できれば、保険適用にする方がより多くの人が保険に加入すると見込むわけである。このようにして、多様性のある民間の医療保険が数多く現れる結果、補完代替医療・健康関連産業が全体的に発達することになる。以上のように、ドイツでは補完代替医療が総じて発展しているのである。

また、ドイツ人、特に旧西ドイツの国民は、ケミカルな物質をあまり好まなくなっている傾向が

見受けられる。これは、近代ドイツの歴史的経緯や特徴的な国民性によるところが多いと思われるが、自己責任下に自分や家族に合った健康保険を選ぶ医療保険の制度を作り上げた原動力は相当強いとみて間違いないと思われる。ドイツ人は、日本人が思っている以上に、自然界のもの(事象)を利用して治療したいという気持ちがあるようである。そもそもドイツの公的保険では、大量生産で比較的安価に供給できるケミカルな薬を保険適用にしていることが多く、その状況は日本と同じである。しかし、ドイツでは、上述のように、近代西洋医学の先導役だった19世紀頃からの様々な経験の蓄積があり、生薬をはじめ自然界のもの(事象)をうまく利用できれば“体に優しいわりに良く効くものがあるはずだ”と思っている人が多いということである。

そこで、近代の西洋医学で挙げられる特徴を今一度整理してみる。近代西洋医学の特徴としては、

- a) 西洋医学的手法では、基本的に、まだ「個人差」「個体差」あるいは「体質」という概念が入っておらず、最近の遺伝子関連の研究によるテーラーメイド医療の可能性が指摘されるまでは、いわゆる「個別化医療」を目指すものではなかった。
- b) 基本的に、“目で確かめられる”ことを基本としている。したがって、その効果効能の判定も、基本的に、“目で確かめられた”数値などを元にして統計学的に、使用前後で差があったかどうかを判定する。そのため、その時点では根本治療と思われたが、後日それは対症療法にすぎなかったということがしばしばある。
- c) 主目的が“できもの”の除去などである手術や

放射線治療等の物理的手段による治療法以外では、主として、物質の投与による刺激療法、補充療法と表現されるべきものがほとんどと思われる。

などが挙げられる。

そこで、これらの対極に位置づけられる方向性の医療技術として、たとえば、下記のような考え方も、今後生じてくるのではないかと推測される。

進化の過程においてはその代償として退化した生理的機能や形態などがあるのではないかと考えた場合、その本来持ち合わせていた生体の恒常性の維持（ホメオスタシス）に必要な機能を蘇らせる、つまり「退化しつつある生理的機能を蘇らせる」技術の開発は、重要な意義を持つと思われる。そのような進化論に視座をおいた治療学という考え方は、恐らくは、現代に増加している諸々の、特に生体の恒常性維持（ホメオスタシス）の機能を損なわせている、あるいは自然治癒力の維持機能が弱まっているような疾患の治療に応用することができるのではないかと推測される。なお、これは、2011年のOded Rechavi氏らによるRNA干渉の発見、つまり、

生殖細胞を通して次世代に伝わるRNA分子があり得るという発見にもとづき、自然界では獲得形質の遺伝が思いのほか広く存在しているのではないかという可能性から推測するものである。

このように、ヒトが進化の過程で退化を余儀なくされた生理機能を無理なく蘇生できる医療技術の開発が可能となれば、今後の補完代替医療としてのみならず、広い意味での自然療法の応用技術としても、重要な意味合いを持つであろうと推測される。さらに、そのような技術開発がうまく進んだ場合には、退化した機能を蘇らせるだけで現代人にとって治療法としてのみならず諸々の心身レベルを含む体調不良をも改善させることができる可能性があり、その場合、その医療技術は無侵襲な方法になる可能性を秘めるため、その検証方法には、臨床試験のみならず、健康者が生理学的データの変化の確認に加え自らの体験を通じて確かめることができる、そのような可能性も考えられる。今後の自然療法重視の流れから繰り出される医療技術の進歩にますます大きな期待が集まっていると思う。